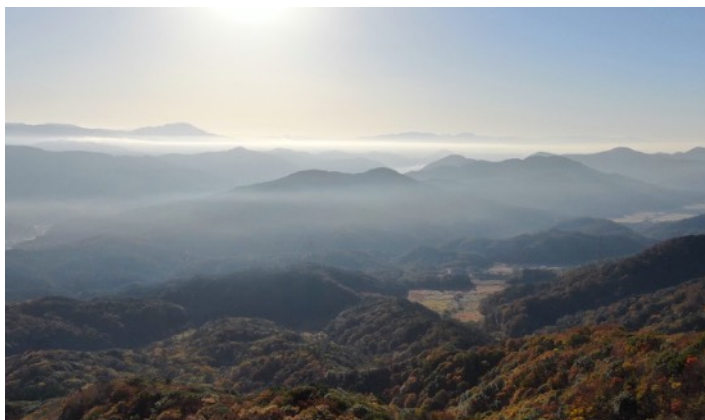


## Yamakado News Letter



四季の森ベンチ周辺で昼食をとる来訪者 11/8



大窓上空から湿原を見下ろす(ドローン空撮) 11/13



紅葉の下でヨガを楽しむ人々 11/24



多様な色に染まった中央湿原 11/18

## 紅葉最盛期を迎えた森

今年の秋は9月は気温が高めで推移し、10月は晴れ間が少なく、逆に11月は晴れの日が多いという傾向でした。植物学者田中修氏によると「紅葉は赤い色素を持っていない。赤い色素はアントシアニンというが、それは新たに作られる。作られるためにはある条件が必要。一つは紫外線が多く当たること。紫外線によって葉の中にあるブドウ糖が分解されてアントシアニンになる。二つ目は昼夜の気温差。アントシアニンを作るためには暖かい気温がいるし、緑の色素を消すためには夜の寒さが必要」とのこと。

今年は紅葉に移り変わる時期が遅目のように思いました。10月は晴れ間が少なかったのですが、そうすると当たる紫外線も少なく、昼夜の寒暖差も大きくなりません。しかし11月になると気温も下がり、また晴れの日が多かったことから、紫外線の量も寒暖差も大きくなりました。今季の前半は紅葉がなかなか進まなかったのですが、11月後半に一気に進み、例年のように山門水源の森が紅葉に染まりました。こうした現象と環境との関係は田中氏の説明と合致するように思います。

また今年の秋は、特に休日は好天に恵まれる日が多く、沢山の来訪者で賑わいました。



炭焼き小屋周辺 11/18



南部湿原展望台より 11/22



### 作業道作り 再開

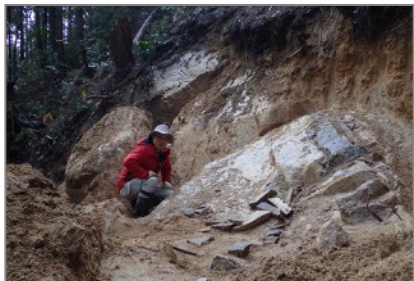
湿原へ様々な保全資材の運搬や、アカガシ林の整備などを目的に、作業道の敷設作業を行なっています。2017年から取り掛かり、翌'18年の年末には尾根道コースへ接続するまで残り100mを切るところまで進みました。しかし、そこで大きな岩に阻まれ直進するライン取りができなくなっていました。

気を取り直して迂回コースを検討。そして今年7月、作業に取り掛かったその直後、今まで負荷をかけ続け過ぎたのでしょうか、重機のエンジンが逝ってしまいました。エンジン修理、また他の保全作業も立て込んでおり、しばらく道作りは中断。10月後半になってようやく作業を再開しました。

11月は作業道作りをメインに行なっています。今年度は8月から就労実践事業で貴島、前田の両名がこの森で活動していますが、日々スキルをアップして、作業に取り組んでいます。彼らの活躍もあり、困難な道作りも予定以上に順調に進んでいます。

### その他、活動など

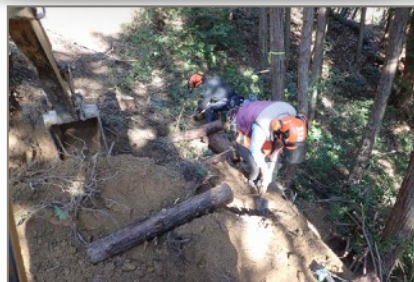
今年沢山咲いたササユリは蒴果も多数実らせました。その蒴果を回収した後は、ササユリが好む環境を維持するために草刈りを行います。その面積は広く、会員だけでは十分な管理が難しいのが実情です。そんなこの時期に、



大きな岩出現で前進を断念 昨年12月



迂回路掘削開始するもエンジン故障



路肩を補強しながら急斜面を進む



何とか難所を切り抜けた 11/6



山門老人会(18名)保全作業 11/6  
Photo by Fujimoto H



西浅井中2年生ササユリ播種 11/8  
Photo by Fujimoto H

毎年山門老人会の方々が保全活動に来て下さいます。今年も18名の方にお世話になり、湿原沿いや尾根道北側進入路、そして楽舎周辺などの草刈りをして頂きました。

こうして綺麗に刈られた斜面に、今年も西浅井中の2年生が採種したササユリの播種に来てくれました。今年は20名の生徒が作業してくれました。今年蒔いた種が花を咲かせるのは、彼らが成人した頃です。ササユリと共に彼らの成長も願いつつ今後の管理を続けたいと思います。

その他、2つの継続調査を行いました。生物多様性保全や水源涵養の指標となる調査です。結果は3月の報告会でお伝えします。



5年目の糞粒調査 11/15-16



3年目、今季最終の土砂回収 11/24